

令和元年秋期富岡第三地区推進連絡会 議事録

1 日時

令和元年11月28日（木） 18:00～19:30

2 場所

富岡地域ケアプラザ

3 参加者

（地域側）自治会等地域団体関係 39名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 4名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 18名

4 議題

（1）開会の挨拶（井上会長）

今年は平成から令和に元号が変わったことをはじめ、台風災害、温暖化、8050や7040問題、身近ではキャッシュレス詐欺等の問題があった一年であった。

また今年度は金沢区の第3期地域福祉保健計画が4年目にあたり、次期計画に向けて地域課題の把握や解決に向けた取組みを考え、次期計画に反映していきたいと考えている。

今日は積極的に情報の共有を行って頂きたい。

（2）区長あいさつ

『住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らし続けるために』

（3）出席者紹介

司会より紹介

井上会長、梅原会長、西川会長、熊谷会長、斉木会長、森事務局長

（4）グループ討議及び発表

テーマ：『地域での高齢者の見守りについて』

① 地域での見守りの現状

② 今後必要と思われる地域での見守り活動

③ これから5、10年後の富岡第三地区の姿

※主な意見交換内容参照

(5) 閉会挨拶 (梅原副会長)

各グループでの意見交換も積極的に行われ、また発表も順調で面白かった。見守られる対象者に気持ちの温度差がある中ではあるが、多世代の連携が重要である。今後は今日の話し合いのまとめを基に、関係機関や区役所と連携をしながら、地域の取組を進められることを期待しつつ、閉会のあいさつとする。

5 主な意見交換内容

(1) Aグループ

【地域での見守りの現状】

- ・10月から新しく、要援護者の見守り活動を開始した。
- ・75歳以上の独居の見守りに加え、高齢者世帯の名簿が配布された。
- ・高齢者に限らず、子どもたちの見守りもしている。
- ・小中学生に(文書で)ボランティアを依頼している。

【今後必要と思われる地域での見守り活動】

- ・防災意識を高めることが見守りにつながる。
- ・防災散歩(危険個所の確認)
- ・テーマ別のウォークラリー(大雨、地震、火事等)
- ・高齢者と子どもの交流

【これから5、10年後の富岡第三地区の姿】

☆ハード面

- ・買い物に困らない町になっている。
- ・幼稚園、保育園、高齢者施設併設の建物が出来ていると良い。

☆ソフト面

- ・小学生との昔遊び、花壇づくりでのふれあいが続くと良い。
- ・子どもたちとシニアが仲良くできる町、お互いを理解する。

(2) Bグループ

【地域での見守りの現状】

- ・災害時要援護者名簿等は提供されているが、実用的な名簿とするために民生委員・児童委員等が訪問して得た情報を基に、各自治会町内会で独自に対象者を整理している。
- ・見守り活動において民生委員・児童委員の役割は大きいですが、選出については難航している。

【今後必要と思われる地域での見守り活動】

- ・見守り活動が見守る側の押し付けにならないよう、見守られる側の立場、気持ちを整理することが大切。ゆるやかな見守りを考える。
- ・自治会町内会だけで見守りをしていくには単位も大きく、責任も重すぎる。

【これから5、10年後の富岡第三地区の姿】

- ・運動会のイベントを通じて多世代が交流し、若い世代も地域づくりに参画する地域になるとよい。そのためには若い世代にあわせた発想の転換でITも活用していくべきでは。

(3) Cグループ

【地域での見守りの現状】

- ・地域での活動の参加を通じて確認している。普段参加している人が姿を見せなくなると心配になる。
- ・地域の活動に参加しない人の見守りについては難しい。
- ・小学生への登校時の声かけ、あいさつも行っている。関係性ができると、子どもたちから気にかけてもらえることもある。

【今後必要と思われる地域での見守り活動】

- ・介護を担う世代の方の見守りや支援
⇒介護者のつどいなど、孤独にならず若い世代を見守る活動も必要。
- ・回覧板を利用し、たまには呼び鈴を鳴らしお互いに安否を確認できると良いが、健康面で回覧板を回せなくなっている方もいる。他都市では光回線を利用して連絡装置などを設置しているところもあるようだが、費用がかかってしまう。

【これから5、10年後の富岡第三地区の姿】

- ・多くの人が自治会町内会活動に参加し多世代が携われるようになれば良い。現役世代も地域行事に関わって欲しいが、役割を担ってもらうには負担が大きい。個人差はあるが、80代以降で役割を担うことにも不安がある。そのため定年直後の世代が担い手の中心になると良い。
- ・「声かけ」や「あいさつ活動」を充実させていく。関係が深まれば、知り合いを増やす活動につながる。

(4) Dグループ

【地域での見守りの現状】

- ・要援護者に対して担当者を決めた。台風の後には見回りを実施し、自宅の被害を確認している人と話すことができた。
- ・77歳以上の方の名簿を作成しているが、登録した人に特典（まんじゅうプレゼント）を付けたことで登録者が増えた。
- ・地域活動に参加される人のマップを作成している。

【今後必要と思われる地域での見守り活動】

- ・地域行事に参加しない人を外に出す仕組みを作りたい。
- ・地震等の災害をきっかけにコミュニケーションをとる場を作る。
- ・サロンでの企画を映画上映会の様に見て終わるものだけでなく、おしゃべりの場を提供するようなものにしていく。

- ・地域と民生委員・児童委員が連携して、地区全体を把握できるネットワークを作る。

【これから5、10年後の富岡第三地区の姿】

- ・個人情報保護の問題はあるが、小さな情報を集約してよりよい地域にする。
- ・人が集まるきっかけ（ギブアンドテイク等）を考え、子どもを巻き込み若い世代とも交流を図る。
- ・個々人が1対1の関係づくりを大切にしていく。

(5) Eグループ

【地域での見守りの現状】

- ・認知症など見守りが必要な人を把握することが難しい。（本人が困ったと言わないため）
⇒本人がカミングアウト（自らの病状など、人に知られたくないことも開示すること）できる雰囲気をつくるのが大事。
- ・近所で心配な方が出たときの情報提供先はどこ？
⇒民生委員・児童委員に相談して欲しい。区、地域包括支援センター、その他関係機関につなぐことができる。『心配な方がいる』と相談してくれれば良い。
- ・高齢2人世帯が増えている。一人暮らし高齢者から漏れてしまい、表面に出にくいのが、老々介護など見守りの必要性を感じる。
- ・イベント等に参加していた人が参加出来なくなった時には見守りの対象にしている。

【今後必要と思われる地域での見守り活動】

- ・緊急時に必要な情報を整理しておく動きやすい。
- ・隣近所と小さな単位でのコミュニケーションが一番情報が入ってくるので、班単位（10世帯程度）がよい。
- ・見守る人が減って、見守られる人が増えている。活動を続けるためには見守る人の数の増やし方を考えることが重要。
- ・町内会の『みまもり』の会で大人は子どもを見守り、子どもは高齢者を見守るようにしている。顔の知った関係になることで、今後の活動にもつなげていける。

【これから5、10年後の富岡第三地区の姿】

- ・地域で眠っている人材を掘り起こす。
- ・自治会町内会の役員にも若い人はいるが、日常の見守りなどは時間的制約があり困難である。
- ・戸建てとマンション間のコミュニケーションが必要である。
- ・自治会町内会会長などの役員に給料を払わなければならない。

以上

